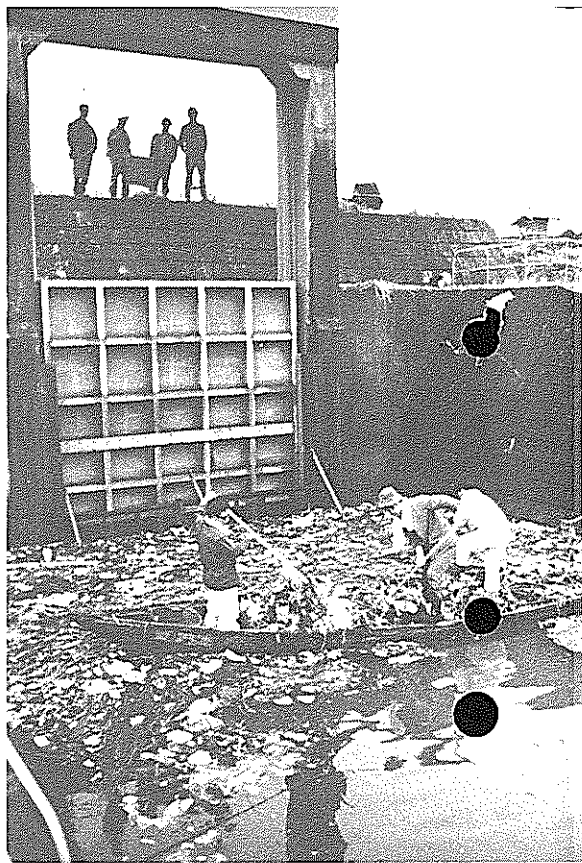


カラ・ルポ “古ビニール”戦争



▲上流に代替施設をとりつけ風雨のなか事前回収に奔走

▼4月25日農協を中心に、市民ぐるみで古古ビニールの回収。初日だけで100トン集まる —三和農協出荷場横で—



▲3月18日 第1放水路、つづいて第2放水路を金網で封鎖。1日1トンのゴミがかかり後川が増水 —第2放水路で—



▲いたるところに不法投棄されたビニール類 —大浦で—



水門封鎖事件は、この五月十五日、五十九日ぶりに金網が完全に撤去された。しかし、法律に違反するこの事件が全県的な古ビニール対策、ビニール公害として、大きく警鐘をあたえたことも事実である。

園芸用古ビニールやポリ容器を流したものは、直接の被害はなかった。自分さえ良ければ事たれりというモラルの低さは、おおいに反省されなければならぬ。そして「河川には絶対ゴミを流さない」ことを肝に銘ずべきである。

金網には一日一、ものゴミがかかり、悪臭のなか市職員は日曜返上で事前回収。漁協・農民そして県・市などは徹夜で協議に奔走。新聞・テレビは連日報道した。そして多くの教訓があたえられたはずである。

今後は明るく楽しいニュースのために徹底したいものだ。

市民の声

きれいだといわれる日本人も裏を返せば手前勝手な不精者といえませんが、このごろニュースを賑わしている水門封鎖事件もその一面をさらけ出したものといえます。

「川へ、海へものを捨てる。それで自分の周囲は美しくなったとしても、川や海を汚すことによつて、かえって多数の人々に迷惑をかけ、決してきれいになったとはいえません。住民の一人一人が、ゴミを捨てない心掛け、公德心を守る事がまず大切だと切実に感じる昨今です。」

ところで、住民のモラルの低さばかりを訴える前に、行政の立場

にある県や市は、自らのゴミやし尿、下水などの終末処理行政の立ち遅れを二層謙虚に認め、一方的に市民に転嫁することのないようにしていただきたいものです。

「川へ、公共用地へ捨てな」ということでなく、それ以前の対策を十二分に講じていただくことがゴミ公害をなくする唯一の方法だと考えます。

ゴミ公害への苦言

最近の生活様式の変化は、一日六百リットル(粗大ゴミを含む)といわれた一人当りのゴミ排出量を二・二倍増してまいりました。このような現状のなか、一日六リットルあまりの市のゴミ焼却炉で、どうして完全なゴミ処理を期待できましょう。最近、計画され進められて

います香南清掃組合によるゴミ処理場の完成まで、市で排出される一日四十リットルの家庭のゴミは、どのように処理されるのでしょうか。私たち住民は、不思議な思いにかられています。現在、収集されています後免町周辺など数地区はよいとされても、まだ多い未収集地

きないならば、好まなくとも生ゴミの理の立て処理の方法をとらざるを得ないではないでしょうか。ドラム缶や石油缶を利用し、家庭で焼却させるなり、小集落ごとに簡易焼却炉を設け、自主的に焼却させる方法など、暫定的な対策を市は考え、指導すべきではないでしょうか、住民もまた一人、一人がその無理に心がけ、市への協力をする事が、ゴミ公害追放への大切な足がかりであること忘れてはならないことです。

川は海へ流れず、山へ流れているというのでしょうか。おかしな発言だと思えます。Aに迷惑でなくとも、Bに迷惑のかかることを忘れてはいないでしょうか。このようなモラルの低さの原因が何か、これを指導する市や農協、園芸組合などの放任主義が、長年の目に余る行為となって現われたものといえます。産業からの排出物は、それを出した業者の責任において完全に処理すべきもので、タバコ、早イモ、ハウスなどに使用した古ビニールの完全回収には、こんど農協などで本腰を入れて実施し、私たちの国土を美しくしていただき、昔日のきれいな川や海に返してくだるよう努めてほしいと願うものです。

とくに農業による古ビニール公害は、過日の高紙に「後川流域へ捨てずに園分川へ捨ててきたから、迷惑はかけていない」といった発言内容が書かれていました。

大塚・武市生